



2021年2月4日

各 位

会社名 ヤマシ フィルタ 株式会社
 代表者名 代表取締役社長執行役員 山崎 敦彦
 (コード番号：6240 東証第一部)
 問合せ先 取締役専務執行役員管理本部長 井岡 周久
 (TEL. 045-680-1671)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年2月4日開催の取締役会において、2020年11月4日に開示した2021年3月期通期（2020年4月1日～2021年3月31日）の業績予想の修正を行うことを決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

1. 2021年3月期 通期連結業績予想数値の修正

(2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	16,000	1,300	1,280	1,350	11.42円
今回修正予想 (B)	14,550	40	60	500	6.35円
増減額 (B-A)	△1,450	△1,260	△1,220	△850	—
増減率 (%)	△9.1%	△96.9%	△95.3%	△63.0%	—
(参考) 前期実績 (2020年3月期)	12,674	777	603	608	8.79円

(注) 前提為替レート 米ドル 108円 (前回見通し公表時 108円)

ユーロ 121円 (前回見通し公表時 121円)

2. 業績予想の修正理由

1. ヘルスケア事業

ヘルスケア事業においては、前回通期の業績見通しを公表した2020年11月4日時点と比較し、新型コロナウイルスの感染拡大によるマスク需要が爆発的に増加した結果、当事業年度での家庭用マスク市場は約5,000億円を超える市場規模に急拡大し、来事業年度以降もウィルス感染予防に対する意識の定着等により通年着用の習慣化が進むと見込まれます。このような背景の中でマスク供給の約60%強を占める海外製の不織布マスクから、消費者ニーズは品質重視の志向性が強まり、安価で品質の劣る海外製のマスクについては淘汰され、良質な日本製・国産マスクの需要が拡大することが高く見込まれます。また、医療用マスク市場においては、N95マスクなど主力製品を海外メーカーからの供給に依存するサプライチェーンリスクの反省を踏まえ、日本企業による国内生産が強く求められております。当社グループは、こうしたマスク市場の拡大と消費者ニーズの変化に対応するために、独自技術である合成高分子系ナノフ

ファイバーを活用した「究極のヤマシン・フィルタマスク」並びに「究極のヤマシン・フィルタシート」の販売を当社の公式オンラインショップや主要ドラッグストアチェーン、大手ECサイト等を通じて第2四半期より暫時開始しました。

また、創業以来70年に及びフィルタ専門メーカーとして培ってきた技術を活かし、新たにNIOSH(米国労働安全衛生研究所)の規格の一つであるN95マスク(注1)の性能基準である、①フィルタ性能―捕集効率95%以上(注2)、②密閉性―装着中の顔とマスクの密着率90%以上(注2)、③通気性―長時間装着での呼吸のし易さ等の、高機能マスクに必要な3大性能を医療用レベルで実現した一般消費者向けフラッグシップモデル「Zexeed」(ゼクシード)の販売を2020年11月より開始いたしました。

更に、2021年1月には、当社「究極のヤマシン・フィルタマスク」シリーズが、その機能性、独自性を認められ、「2020年日経優秀製品・サービス賞」を受賞しました。

これらの取り組みにより、来期以降も高い水準が続くと見込まれるマスク市場に対し、当社独自技術による高機能マスクを市場に投入しシェア拡大に邁進してまいります。

一方、当社のマスク量産体制については、他に例のない立体構造のナノファイバー素材のフィルタシートを使用した製造工程の確立に多大な時間を要したことから、ドラッグストア市場等への供給が大幅に遅延しました。また、量産体制構築の過程では製造原価の低減が十分に図れなかったこと等により、当第3四半期のヘルスケア事業の業績は著しく低調に推移した結果を踏まえ、通期業績予想の修正を行います。

今後、当社グループは、国内一般消費者向けマスク市場のみならず、逼迫する医療現場等において需要の拡大が見込まれる医療用の高機能マスクの増産に対応すべく、必要とされる認証の取得(日米欧の各規格(注3))により、医療用の防塵マスク市場への進出を視野に入れ、更なる高機能マスク開発に邁進するとともに、製品ラインナップ及び販路の拡大に取り組み、自社開発ナノファイバーの特性を活かした独創的な製品開発による差別化戦略により、来期以降収益の最大化を実現させてまいります。

(注1) N95マスク (Particulate Respirator Type N95) とは、アメリカ合衆国労働安全衛生研究所 (NIOSH) のN95規格をクリアし、認可された微粒子用マスクのこと

(注2) 当社調べ

(注3) 日本における国家検定規格 (DS)、米国におけるNIOSH規格 (N95) 及び欧州におけるEN規格 (FFP)

2. 建機用フィルタ事業

前回通期の業績見通しを公表した2020年11月4日時点と比較し、新型コロナウイルスの感染拡大第2波、第3波の影響などにより、世界経済全体や為替動向には依然として先行き不透明さが残る中、日本、北米、欧州各国においては、停滞していた主要得意先各社の生産活動は前年度と同水準まで回復傾向にあり、当社の需要は増加しております。また、世界の油圧ショベルの販売の6割以上を占める中国市場においては、日系メーカーを中心とした当社の主要得意先各社の市場占有率が大幅に縮小し、中国系建機メーカーの市場占有率拡大が継続する中、主力のリターンフィルタを中心とした当社製品の中国系建機メーカーへの標準品採用が着実に進捗している結果を踏まえ、増収が見込まれます。

しかしながら、コロナ禍により世界的に発生しているコンテナ不足の影響から輸送コストが高騰し、当社の材料調達や得意先への納期対応に係る航空運賃の継続的な発生による減益が見込まれることから、通期業績予想の修正を行います。

3. エアフィルタ事業

エアフィルタ事業の業績見通しについては、コロナ禍におけるオフィスビルの稼働率減少及び鉄道運航本数減少等の影響により、フィルタ交換需要の減少による減収及び減益が見込まれることから、通期業績予想の修正を行います。

4. 結論

以上により、2020年11月4日に公表しました通期連結業績予想の修正を行います。

なお、2021年3月期の想定為替レートにつきましては、米ドル108円、ユーロ121円を据え置きます。今後、市場環境の変化が業績等に影響を与える場合には速やかに開示いたします。

(ご参考)

1. 連結業績予想値の修正概要

- a. 売上高については、建機用フィルタ事業については増収が見込まれる一方、ヘルスケア事業及びエアフィルタ事業に関しては減収が見込まれることから、全体で9.1%の減収となる見込みです。
- b. 営業利益については、建機用フィルタ事業における増収効果はあるものの、コロナ禍において輸送コストが高騰するなか、材料調達や得意先への納期対応のための航空運賃等や事業ポートフォリオ構築の検討に要したデューデリジェンス費用の発生、またヘルスケア事業における大幅な減収による影響や事業立ち上げに伴う広告宣伝費用等の発生により、前回開示した業績予想に比べ96.9%の減益となる見込みです。
- c. 経常利益については、営業利益の減少等により、前回開示した業績予想に比べ95.3%の減益となる見込みです。
- d. 親会社株主に帰属する当期純利益については、2020年11月4日付けプレスリリース「和解による紛争の解決に関するお知らせ」に記載の通り、2019年8月に子会社化したアクシー社の売主に対して一定の請求を行い、当社と売主らとの間で和解契約を締結したことにより、当第3四半期に特別利益を計上した結果、前回開示した業績予想に比べ63%の減益となる見込みです。

2. 事業セグメント別の見通し

(2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位:百万円)

セグメント		前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額 (B-A)	
売上高	内訳	合計	16,000	14,550	△1,450
		建機用フィルタ事業	10,000	10,950	950
		エアフィルタ事業	3,000	2,600	△400
		ヘルスケア事業	3,000	1,000	△2,000
		調整額/全社費用	-	-	-
営業利益	内訳	合計	1,300	40	△1,260
		建機用フィルタ事業	1,353	1,310	△43
		エアフィルタ事業	290	50	△240
		ヘルスケア事業	910	△40	△950
		調整額/全社費用	△1,253	△1,280	△27

※各セグメントの業績及び全社費用をよりの確に把握するため、当社の各報告セグメントに帰属しない本社の管理部門の一般管理費等の全社費用につきましては、全社費用を別掲することにより、所定のセグメントに配賦しない方法に変更しております。

以 上